

1

注文
(注文)

2 定める

3 海岸

4 鉄道

5 交代
(交替)

6 号外

2

1 A ウ

B ア

C エ

2 ① ウ

⑥ ア

3

3 (記述題)

4 (4完答) マ い

5 ⑤ でも、学

3

8 ウ

1 A ウ

B エ

C ア

D イ

2

3
ママのきげんを悪くさせては
いけない。と思っただから。

(同意可)

2 ア・イ・エ
(2 順不同・完答)

3 二

4 自分

5 (5完答) ④ オ ⑤ ウ

6 イ

7 I 1

II 1

III 2

配点	
1・2 1・3 1	各2点×13=26点
2 3	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

- 1 「注問」「注門」などと書いてしまわないようにしよう。
- 2 送りがなもあわせて覚えておこう。「定る」ではない。
- 3 「岸」の最後に書く部分は「千」ではなく「千」なので気をつけよう。
- 4 「鉄」の右側は「失」である。「矢」にならないように注意したい。また「道」の部首である「しんにょう」は三画で、形にも気をつけて書こう。
- 5 「代」によけいな左はらいの画を書いてしまわないようにしよう。
- 6 「号」は五画である。下の部分を「万」としなないように気をつけたい。

2

- 1 A 「息をのむ」は「驚きや恐怖のために一瞬息を止める」こと。
- B 「先手を打つ」は「起こりそうな事態に備えて対策を講じる」という意味である。「機先を制する」という慣用表現もあわせて覚えておきたい。また、「後手」「上手」「下手」の意味や使い方の確認もしておきたい。
- C 「凶星」はもとは「的の中心の黒点」のこと。そこから「目当ての所。急所」という意味も持つようになった。ここでは「当たり」というような意味になっていると考えればわかりやすいだろう。また、「白星」「黒星」「金星」もそれぞれ意味や使い方の確認をしよう。
- 2 ① ①の直前にある「ゆうすけ」のことは、「ほんとに、いいの？あとで、うそだっていったら、ぼく家出するかね」はママのことを疑っている言いかたであるし、直後の「ママうそついたこと、これまである？」にはそんな「ゆうすけ」のことは対するママの不満が表れていると考えられる。
- ② ②の直後にあるママのことは「ゆうちゃん。おねがいがある。ママの一生のおねがいの」から考える。このようなどきに出す声を「猫なで声」という。
- 3 文と文のつながりを意識しながら通読できていれば、——線②の直後にある「ここは、ママのきげんを悪くさせてはいけない」がその理由であるとわかっただろう。ここでママのきげんを損ねて、「夏休みの間中、塾へいなくていい」という話がないようになってしまふのは避けたいのである。あとは字数や文末表現に気をつけて答えを作成しよう。
- 4 ③の二行後に「やつぱりちよつと変だった」とある。——線③とこのあいだに「おかしい」「変だ」と「ゆうすけ」が思うことが書かれていると目当てをつけてさがそう。
- 5 ④のあとでゆうすけが「どこへいくの？」と言っていることから、疑問に思っていることは「どこかに行く」ことだとわかる。それがわかるのはママの「でも、学校と塾の夏休みの宿題は、きちんと持っていくのよ。」ということになる。「持っていく」ということは、どこかに行くことを意味している。
- 6 「おっかない」は「こわい」「おそろしい」という意味である。「おっかなびつくり」ということはもある。
- 7 ⑦の直前のゆうすけのことは「ぼく、ひとりでは、いかないからね」から、このままではゆうすけひとりでいかせようとする計画がうまくいかなくならないと思ひ、こまっっている。
- ⑧ ⑧の直後にあるママのことは「ドイツに木彫りの勉強をしにくくために、なんとかゆうすけひとりでいかせようとするママの必死なようすが読みとれる。
- ⑩ ⑩の直前のママのことは「三週間」というより「二週間」と、少しでも短くしたほうが受け入れてもらいやすいと考えたのである。

3

- 1 A (A)の前で「サル」といっているが、(A)のあとで「サルというより、(B) 私たち人間にきわめて近い仲間なのです」といっているので、ウの「でも」がはいる。
- B (B)の前後で彼ら(類人猿)はサルと比べて、人間に近いといっているので、エの「むしろ」がはいる。
- C (C)の前後で類人猿の特徴をならべているので、アの「また」がはいる。
- D (D)の前後で内容をあとで言いかえていっているので、イの「つまり」がはいる。
- 2 「彼ら」とは——線①より前に書かれている「高等なサルのグループ」にはいるものを指しているので、アの「オランウータン」「イの「ゴリラ」、エの「チンパンジー」になる。
- 3 ②の次の段落のはじめの一文に書かれている。「しっぱがな」い、「ほかのサルに比べて大きな体をしている」の二つである。道具と鏡のことは「外見の特徴」ではない。
- 4 鏡に映った自分の姿を見てどう認識すればぬけて頭がいいといえるかと考える。
- 5 類人猿と比べているので、ウの「ヒト」とオの「ニホンサル」のどちらかがはいることになる。これまでに「ヒト」と類人猿が似ていることが説明されてきたことから、⑤にウの「ヒト」がはいるとわかる。
- 6 「やはり」は「思った通り」であるときに使う。直後に「オランウータンも、きわめてヒトに近いのです」とあり何とならべて「も」と言っているのかを考えれば、イになる。
- 7 I (A)がある段落に書かれていることと合う。
- II 本文最後から二つめの段落に書かれていることと合う。
- III 「三九〇〇年前」ではなく「三九〇〇万年前」であった。